

ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者
小教区評議会役員各位

2018年 小教区評議会役員研修会報告

2018年6月
福音宣教企画室

- テーマ：教会共同体づくり
- 対象：ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員
- 講師：大塚喜直司教、鶴山進栄神父（京都教区）
- 日時：2018年5月12日（土） 10：30～15：00
- 場所：カトリック京都司教区 河原町教会・ヴィリオンホール
- 参加人数：81名（信徒73名、修道者2名、司祭6名）

- 内容：午前 講話（大塚喜直司教、鶴山進栄神父）
午後 小グループでの話し合い、全体会

大塚司教講話の要旨

京都教区の宣教優先課題（2001年）はくり返し確認し、いつも念頭に置く。共同宣教司牧における教会共同体作りでは、皆が参加して共同体を作っていくということが重要である。今日は、すでに出来上がったコミュニティにどう新しい人を迎えるかに注目する。参加型の共同体作りで大切となる「分かち合い」は人と人とのダイナミックなまじわりであり、この活動にシフトする共同体は自然と共同体内が活性化し、目が外に向き、まさに福音宣教する、宣教型の共同体になっていく。新しく来た人を同化させるのではなく、それぞれのニーズに応じたかかわり、互いに奉仕し合うという心構えが本当の教会共同体作りにつながる。

鶴山神父講話の要旨

山城ブロックにおけるベトナム人青年たちとのかかわりについて紹介。「教会の良さを知ってほしい、日本を嫌いになってほしくない」という思いから各教会の信徒と協力してかかわりを始めた。各教会のベトナム人同士が知り合いになり職場以外で友達ができるよう、小教区を超えて行事に参加できるように声をかけたり、ミサで疎外感がないよう対訳のミサガイドや「聖書と典礼」に当たるものを準備したりした。スマートフォンやタブレットで翻訳機を使用しながら互いに意思疎通をし、しだいに共同体の一員になっていった。

グループでの話し合いのテーマ

1. 外国人の方がミサや教会の集まりに来ているか、その対応はどのようにしているか
2. 外国人の方が教会に来るようになって、どのようなことが豊かになったか
または 今後外国人の方が教会に来るようになったら、どのように対応したいか

小グループ報告 →別紙（小グループでの話し合い まとめ）参照

研修会のふり返し（一場神父）

大塚司教の講話から、私たちはいつも、三位一体の神のまじわりという原点に戻り、自己完結ではなく開かれたダイナミックなまじわりを目指していくことを学んだ。新しいメンバーを迎えるためには、今までとは違う視点を持ち、自分が新しくなっていくことが必要であり、自分の心はまじわりに開かれているか、共同体はまじわりに開かれているかといつも問いかけることが大切である。

そして鶴山神父の講話から、熱意と、新しいことに対して謙虚に学ぼうとする姿勢を学んだ。新しいことを取り入れていく姿も開かれたまじわりと言える。小さな共同体でもベトナムの人々とまじわることで元気な共同体になっていったということは、「まじわりを深めようとするときに福音宣教する共同体になる」ことの生きた証である。

新しい人が来て不安になり、心配になるということはつまり、新しくなる、開かれるということである。そしてそれは神様から呼ばれていることでもある。心配ではなく変わって行くことを楽しみとしてとらえ、来年のテーマである「社会とともに歩む教会」も同じように、成長するチャンスとして、福音を証していくチャンスとしてとらえたい。

福音宣教企画室のふり返し

今年のテーマは教会共同体作りで、以前からアンケートの回答でも多く挙がっていた「外国人信徒とのかかわり」という視点から考えることにしました。地域によって外国人信徒の増加には差がありますが、多くの教会にある現状であり、取り組むべきテーマです。

今回のアンケート回答から見ると、研修会では学びを中心としていますが、概論的なことに加えて、実際の司牧の経験を話していただいたことで具体的に参考になったことも多かったようです。またグループでの話し合いで他教会の現状（特に他ブロック）を聞いて良かったという声も多く挙がりました。秋の交流会ではさらに役員同士のまじわりを深めながら、具体的な学びがあるように企画していく予定です。

今回の研修内容をそのままにしないよう、本報告や「小グループでの話し合い まとめ」を利用して小教区評議会で共有し、このテーマについて自分たちの共同体にはどのようなことが必要か、どのようなことができるのか等、深める機会を持っていただけたらと思います。